Shimada 1 2020 No.259
City Public Relations 広報しまだ

島田人 Story

Shimadajin File #98

伊太地区の梅を、次世代につなげていきたい ――――

11月に大分県日田市で開催された「第8回全国梅干コンクール 梅干の部」で入賞した大石夫妻。伊太地区の代表的な品種「島田八房梅」を作りながら、若者も農業に参入しやすい基盤を作ろうと、梅の魅力を広く発信しています。

梅工房おおいし(向谷元町)

大石富佐子さん・大石昭さん

【島田八房梅との出会い】

「15年程前に、地元の知人から譲り受けた梅が、島田八房梅でした。食べてみると果肉は柔らかく肉厚で、とてもおいしかったです」と話す富佐子さん。「その梅の実を使って、おいしい梅干しを作りたくなった妻に頼まれ、庭に苗木を10年程前に植えたのが、梅栽培の始まりです。そして8年前、私たちの梅作りの話を聞いた伊太地区の農家さんたちが、梅林ごと土地を貸してくれ、栽培のコツも教えてくれました。島田八房梅との出会いが、地域の多くの人との出会いにつながりました」と昭さんは振り返ります。今では2人で、約80本の梅の木を大切に育てています。

【伊太地区の梅を世界へ】

昭さんが収穫した梅を加工するのは、富佐子さんの仕事。どのような梅干しにするか研究を重ねているのだと、微笑みます。

「まず、私が味付けの方向性を決めます。その後、夫と何度も話し合ったり、地元の友人を誘って試食会を開いたりして、出た意見を反映させていきます。勉強のために、紀州の梅農家さんに話を聞きに行って、梅の漬け込み方や干し方、塩分の調整方法などを学んだこともありますよ」

富佐子さんは、より多くの人に梅の魅力を知ってもらいたいという思いから、国内にアピールするだけでなく、海外にも目を向けました。

「おびサポや商工会議所の支援を受け、海外への販路拡大を目指しています。こうした取り組みが実れば、梅を食べる文化のない人たちにも、そのおいしさを知ってもらえるかもしれないですね」

【次の世代へのバトン】

良質な梅を作り続けると同時に、次の世代への継承も考えなければと話す富佐子さんに、昭さんもうなずきます。

「畑仕事をやりたい若者も、一定数いると思います。でも、生活できる水準まで持っていけるか不安だから、農家が職業の選択肢に入らないのではないでしょうか。言い換えれば、現役の私たちが、関係機関の支援も得ながら、就農への課題を解決していくことが大切。安心して働ける環境を築くことで、飛び込む勇気を若者に与えられると思います。島田八房梅の魅力をあらゆる場所に発信し、梅のニーズを高めることは、農業としての梅栽培がより安定する糧になると考えています」

島田八房梅を次世代につなげる大石夫妻の試みは、まだ始まったばかり。梅作りのこれからを見据えて、2人は歩み続けます。

初めて植えた島田八房梅の木(自宅の庭)

発行／編集 島田市市長戦略部広報情報課
〒427-8501 静岡県島田市中央町1番の1
☎0547-36-7118
「広報しまだ」は、再生紙を使用しています。
http://www.city.shimada.shizuoka.jp